



元気とタイムリーな情報を提供する 五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2025年12月22日 第1248「週刊五十嵐レポート」

ライフサイクル

ランチェスター商品戦略のテキストの中に、下記のように書かれている。

市場占有率が1位になって26%以上を押さえ、2位との差が10対6以上の差をつけると1人当たりの経常利益が業界平均の2倍～3倍でるようになる。これで安心かというとそううまくはいかない。これまで長く売れていた商品もやがて売れなくなるというライフサイクルの原則がある。

今は商品が多く売れて調子がよい。多く儲かっているということで「ゆるみ」が出て、高級車を買ったり、豪邸を建てたり、必要もない高額の備品を買つてはいるが、主力商品の売上が低下したら、対応できなくなる。自社の主力商品はいつ頃ピークを迎え、もし代替商品が出るしたら、いつごろになるか、どういう産業から出てくるか、これらを考えておく必要がある。

12月20日付日経新聞、「技術、中国に4年遅れ」という記事。

ロボット掃除機「ルンバ」を開発する米アイロボットが米連邦破産法11条の適用を申請した。経営破綻の原因について経営トップは、「中国の競合企業に対し、製品の技術革新で4年遅れていた」と語った。

2022年米アマゾンが買収することで合意した。米欧の競争当局は認めず24年1月破談となった。買収審査が長引いた1年半と開発や先端技術の採用で遅れるなど経営判断ミスを合わせて、4年間にわたり革新が止まり、他社に遅れをとった。

家庭用のロボット掃除機におけるアイロボットの世界シェアは2017年の約50%から25年1～9月に7%に低下した。世界シェアトップの北京石頭世紀科技(ロボロック)、2位のエコバックスなどの中国勢が台頭し、安さに加えて1台で床の水拭きができるなど機能面でアイロボットに先行した。アイロボットのトップは、「当社は市場を開拓したものの、競争を真剣に捉えていなかった」と。

「ルンバ」は一世風靡した。売れている商品も必ず売れなくなる日が来る。これは真実。自社の商品もそう思いながら次の一手を考えておきたい。

ちょっと
気になる出来事

12月21日付日経新聞、「蘇った経済の体温計」という記事。

長期金利が19年ぶりに2%台をつけた。金利が自由に動くようになり、景気や物価の先行きなどの予測を反映する「経済の体温計」としての機能が蘇った。急速に上昇する長期金利は転換点を迎える日本経済の変化を映し出す。

雇用需給の改善で、賃上げ率は1%台から5%台まで上がった。賃上げと物価上昇の好循環が生まれつつある。

資産価格も上がった。日経平均株価は一時5万円台を付け、当時(2006年)の3倍以上となり、新築マンションの価格は2倍近くに膨らんだ。デフレ環境の日本は過去のものとなったことを長期金利が映し出す。

金利の上昇は住宅ローンなど負債を抱える個人や低金利に依存してきた企業には逆風。半面、企業の新陳代謝が活発になり、経済は筋肉質になる。

金利が正常に上がり始めた。日本の経済も飛躍する時代に来た。新陳代謝が活発になるとは、倒産が増えるということ。それ以上に成長する企業が出てくるということ。来年は楽しみである。



一口メモ
知識

言葉と行動 2

ひとかどの人物というのは、
相手の言葉だけで人を軽信せずに、
行動をしっかりと見極めるものだよ。

また誰が発言しようと無視するようなことはしないものだね。
誰の発言であろうと、正しい意見は採用するのさ。

「高校生が感動した『論語』」(祥伝社新書/佐久協)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

株式会社五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051 東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL 03-3659-7703 Fax 03-3659-7077 info@igarashireport.com

